

みすずかる

長野県埋蔵文化財センター ニュース

平成 15 年 8 月 12 日 発行

地域の新たな財産の 掘り起こし

平成 15 年度長野県埋蔵文化財センターの事業

長野県を南北に縦断するのに高速道路を使っても、2 時間以上かかります。太平洋に流れる木曾川・天竜川、日本海に流れる犀川・千曲川。南アルプス、中央アルプス、北アルプス、長野盆地、佐久平、松本盆地、伊那谷。長野県は全域が自然環境に恵まれ、素晴らしい財産を持っています。

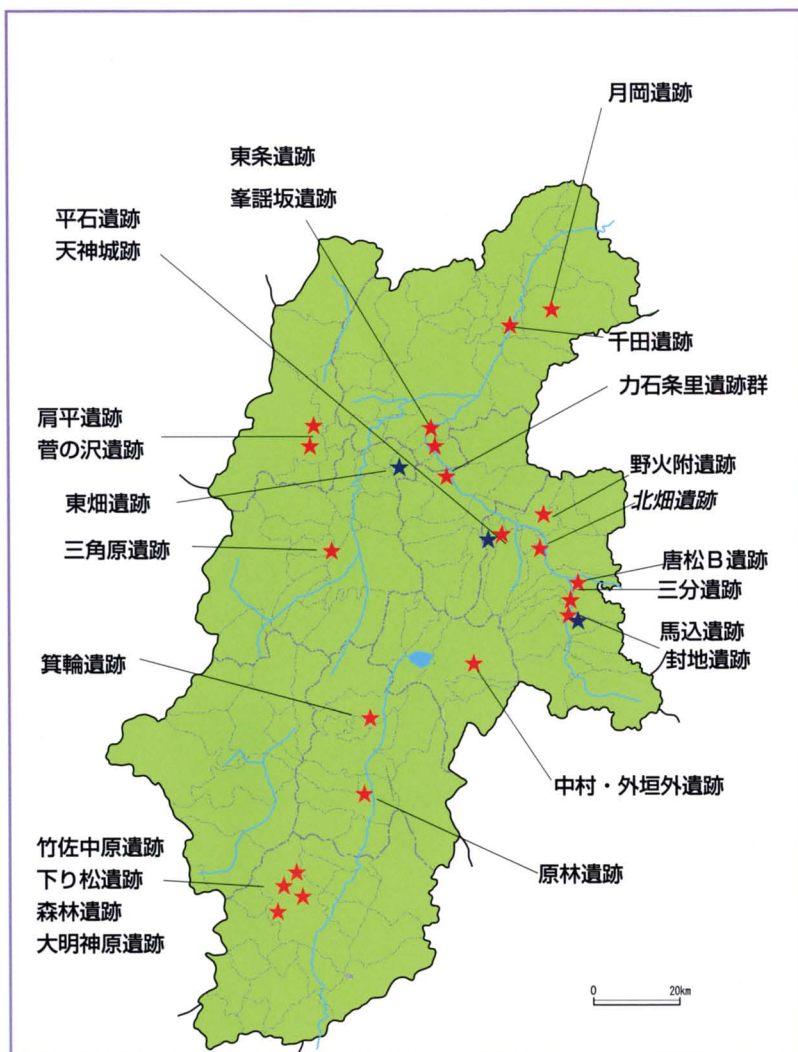
平成 15 年度、埋蔵文化財センターでは、下図にあるように県下一円 21 遺跡の発掘調査を行います。また、これまでに発掘調査をした 8 遺跡の整理作業を行い、7 遺跡の調査報告書を刊行します。

発掘調査にかかわる原因は、道路建設、新幹線建設、土地改良、堤防建設、国営公園建設事業など多種多様であります。こうした開発事業によって遺跡が破壊されることから、発掘調査をして記録を残すことにしています。

広い長野県ですから、山や峠を挟んで特色ある文化をそれぞれの地域で培ってきています。そうした特色作りはいつから、どんな具合になされてきたのでしょうか。埋蔵文化財センターの発掘調査によってその一端が明らかにされるとともに、発見された遺構、遺物は地域にとってかけがえのない財産になります。

地域の方々のご協力を得て、長野県下の地域財産を掘り起こすために、調査研究員は東奔西走しています。そして、今年もまた新たな財産が掘り起こされ、長野県の歴史の一端が実物を通して解明されていきます。

(市澤調査部長)



平成 15 年度 長野県埋蔵文化財センター発掘調査遺跡
(★は町村への技術指導の遺跡)

遺跡ニュース

発掘現場から

縄文時代中期後半の小集落

さがりまつ
下り松遺跡

飯田市竹佐

下り松遺跡は飯田市南西部の竹佐地籍に位置します。遺跡のある小丘陵は、この地域で最も古く形成された扇状地がその後の浸食により東西に細長い台地状の丘陵となって残ったものです。今回の調査は三遠南信自動車道の建設に伴う事前調査です。一昨年一部調査を行い、耳飾りをはじめとした縄文時代早期の遺物と中期の遺物を確認していましたが、本年度の調査で竪穴住居跡6軒と土坑約70基が見つかりました。竪穴住居跡は類似した規模・構造といえます。直径5m強の円形で、石囲い炉があり柱穴を五角形に配置する形態が典型で、1軒だけですが埋甕をもつ住居があります。土坑は住居跡に隣接した位置に群在する傾向が認められ、台石を放り込んだと思われるもの、多量の土器を出土したものもあります。出土した遺物等からみて、これらの遺構は縄文時代中期後半の比較的接近した時期に営まれたと考えられます。

(若林調査研究員)



竪穴住居内で見つかった埋甕

中世の寺院跡？

発見された屋敷群

つきあが
月岡遺跡

中野市岩井

月岡遺跡は中野市の北端、東方の月岡と呼ばれる山際の丘陵にあります。北陸新幹線工事に伴う発掘調査が行われることとなり、これまでに中世の屋敷群と弥生～古墳時代にかけての土



器の散布地がみつかっています。

中世屋敷群は斜面に長さ60m、幅20m前後、比高3～5mの大きな平坦地を数段造り出し、その中に長さ10m前後、幅6mほどの小平坦地を並列させたものです。小平坦地は、溝で画した小さな平場で、中に穴、建物、焼土跡があります。建物や溝は数度造りかえされており、同じ場所で長く生活した様子がうかがえます。また、小平坦地自体も埋め戻しや造りかえもあって、複雑に重なっています。遺物は中国陶磁器碗・皿、古瀬戸天目茶碗、内耳鍋（土鍋）、カワラケ（素焼土器皿）、青銅製の香炉や刀金具、銭などがあります。また、月岡遺跡の北端尾根には川原石を積み上げた塚があり、お経を書いた石が見つかっています。遺跡周辺は平安～戦国時代に称念寺があったと言い伝えられており、今回の調査でみつかったものは室町時代～戦国時代初めにかけてのものなので、言い伝えと重なる時期ではあります。

(市川調査研究員)

八稜鏡が茅野で出土

なかむら そとがいと
中村・外垣外遺跡

茅野市西茅野の中村・外垣外遺跡は縄文時代から中世にわたる遺跡です。今回、平安時代後期頃の墓穴から2つの鏡と2つの鉄鐸、それと棒状の鉄製品がみつかりました。鏡の一つは瑞花双鳳八稜鏡で、鈕（中心の紐を通すための突起）をはさんで一對の鳳凰（もしくは鳥）と瑞花をあしらったものです。もう一つの鏡は鏡の周囲に繊維や板材が残っていたため模様はさだかではありませんが、その輪郭から八稜鏡であることがうかがい知れます。また、鉄鐸の出土は諏訪大社との関わりを濃密に示すものと考えられ、埋葬された人物が相当の力を持っていたことが考えられます。瑞花双鳳八稜鏡の発見例は長野県内で二十数例知られていますが、鉄鐸との共伴例は初めてで、諏訪信仰を考える上でも貴重なものといえましょう。

(藤原調査研究員)



墓穴からみつかった瑞花双鳳八稜鏡

用語の説明

どこう
土坑…あな。墓穴・貯蔵穴など

てったく
鉄鐸…鉄板を円錐状にまいたもので、祭祀に用いられたと考えられる鉄製のスズ。神長官守矢資料館では「さなぎ鈴」とよばれる鉄鐸を見ることが出来る。

はちりょうきょう
八稜鏡…八稜の形をもつ鏡。

整理作業室の窓から

なかまち
仲町遺跡

信濃町野尻

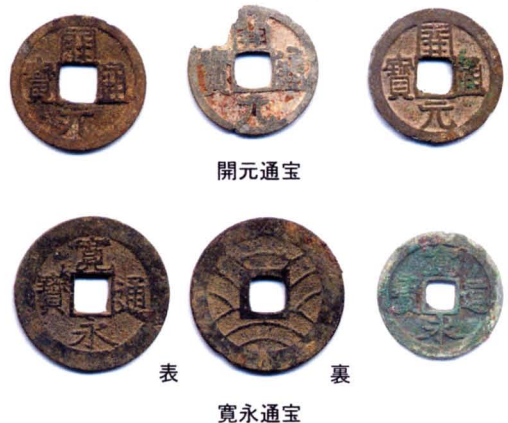
近世の往来

北国街道 野尻宿を偲ぶ

仲町遺跡は旧石器時代から縄文時代草創期の遺跡として知られていますが、今回は北国街道野尻宿関連の調査資料を紹介します。野尻宿の跡（約800㎡の調査範囲）からは中近世の建物跡などが多数発見され、陶磁器とともに約300枚の古銭が出土しました。2～5枚が重なって出土した例も多く、地鎮などの目的で埋められたものもあるようです。

宿場跡からは、寛永通宝が101点出土しました。元豊通宝、文久永宝など中世に使われた古銭も出土し、初鑄年が621年の開元通宝も9点出土しました。宿場から離れた街道沿いの調査区からも古銭が出土しています。旅人の落とし物もあるのでしょうか。

(鶴田調査研究員)



夏の催しもの情報

平成15年度 夏季企画展

ふるさとの文化財をすくえ

—伝えたい古人の心と技—

場所：長野県立歴史館 8月24日(日)まで

長野県埋蔵文化財センターからは
土器の復元技法について紹介しています。

平成 14 年度
 長野県埋蔵文化財センター速報展
 「長野県の発掘 2002」から

平成 15 年 3 月 15 日 (土) から 5 月 5 日 (月) まで、長野県立歴史館で開催しました。展示したのは豊田村千田遺跡(縄文時代)、上山田町力石条里遺跡群(弥生時代)など初登場遺跡の資料、茅野市長峰・聖石遺跡(縄文時代)など継続調査や整理中の遺跡の資料と、更埴市屋代清水遺跡(弥生時代)など借用した関連資料や技術協力した遺跡のものです。



4 月 12 日 (土) には、千田遺跡、力石条里遺跡群、飯田市竹佐中原遺跡(旧石器時代)、小諸市鎌田原遺跡(古墳時代)の報告会を行いました。担当者が遺跡概要や調査成果をスライドなどをまじえて発表し、90 人の参加がありました。期間中の入館者総数は 9,055 名と多くの方々にご観ていただきました。最後に、多くの方のご協力をいただき、無事終了することができました。本当にありがとうございました。(寺内貴美子調査研究員)



遺跡報告会

野 帳 今年の発掘調査も、梅雨空の季節を過ぎ、いよいよ暑い日差しの中での、調査となりました。各発掘現場も遺跡のおおよその全体像がわかり、調査の正念場を迎えます。また、整理作業も年度内の報告書刊行に向けて、一つ一つの遺物をきめ細かく見つめる作業が続いています。長野県立歴史館・各市町村の博物館はもちろんのこと、これら発掘現場や事務所は県民の皆さんを待っています。この便りが、足を運ぶプラスのエネルギーになってもらえれば幸いです。(小林)

埋文告知板

現地説明会のお知らせ

さんかくばら

三角原遺跡

【日 時】 8 月 24 日 (日)
 【時 間】 9:00~12:00
 【説明会】 9:00 10:00 11:00 の 3 回
 【場 所】 南安曇郡三郷村温
 三郷村広域農道を堀金村方面へ
 浜園芸の看板を左折

【遺跡の様子】

平安時代中頃(10世紀~11世紀中頃)の竪穴住居跡が約45軒みつかりました。住居の形は方形が多く、規模は1辺が4~5m



ほどです。このほか長さ2mほどの楕円形をした穴もみつかり、中から土師器の食器が6点出土しました。今のところ住居の規模がほとんど同じで、出土する遺物も住居間で質・量の変化がないところから、貧富の差のあまりない人々が暮らしていたムラと考えられます。

(広田調査研究員)

長野県埋蔵文化財センターニュース

平成 15 年 (2003 年) 8 月 12 日

(財) 長野県文化振興事業団

長野県埋蔵文化財センター

〒387-0007 更埴市屋代字清水 260-6

TEL 026-274-3891

FAX 026-274-3892

E-mail maibun@avis.ne.jp